

S.C.WORKS 今週のスタディ！

【ヘッドライン】

- 1) 「西武渋谷店、新業態のメディア型OMOストア」
- 2) 「パルコがウエルネス事業へ参入、大阪・心斎橋に医療モール“ウエルパ”開設へ」
- 3) 「使うだけでデジタル通貨がもらえる循環型トイレが韓国の大学に誕生」

---

1) 「西武渋谷店、新業態のメディア型OMOストア」

そごう・西武は8月27日、西武渋谷店に9月2日にオープンするD2Cブランドを集めたメディア型OMOストア「CHOOSEBASE SHIBUYA (チューズベースシブヤ)」の詳細を発表した。

同店は、ミレニアル世代やZ世代の関心事である社会課題をテーマに設定し、テーマに寄り添った商品やブランドが編集されたストア。半年ごとに注目すべき編集テーマを設け、共感するブランドをパートナーとして、更新され続ける実験的な店舗づくりに挑戦する。店頭・EC・メディアを横断して、つねに新しい出会いと学びのある購買体験を提供。「モノを買う」のではなく、「気付き」「賛同」「応援」を入り口に、「意味に出会い、意志を買う」という次世代の店舗のあり方を提案するという。

会場は4つのエリアで構成し、会場内には国内唯一となるAdoも参画するGoogleの新プロジェクト「I DISPLAY music」の体験ブースを設置。展示室エリアでは、展示商品をスマホ上の買物バッグへ追加し、それをカウンターにて掲示することで決済手続きへと進む新たな購買体験を提供する。空間設計は、OMOストアでありながらテクノロジーに寄りすぎない人間的な消費の在り方を体験できる場を作る上で、百貨店ならではの「編集」というキーワードをもとに、余白のある世界観の構築を目指した。

同ストアが取り上げる最初のテーマは「サステナビリティ」。渋谷を訪れる人々がより身近にテーマを自分ゴト化できるよう、「タイムリミット」というキーワードを設定し、売場を編集する。

環境破壊が進み、地球や文化の「タイムリミット」が近づいていることに対する問題意識を持ち、プラスチックフリー、オーガニック、アップサイクル、ロングライフ・プロダクトなど、「タイムリミット」を多角的に捉え、具体的なアクションを起こしているブランドを誘致した。

会場の4つのエリアは、それぞれに異なった体験を提供。2つある展示室エリアでは、D2Cブランドを中心に、51ブランドの商品がそろろう。

「サステナビリティ」を切り口にキュレーションされているブランドの商品、展示室に施される空間演出を通じて「私たちの未来」を考えるきっかけを提供したい、という思いがこのエリアに込められている。

他にも商品展示だけではなく、ラウンジエリアも用意した。ラウンジエリアは、完全キャッシュレスのパーソナライズドカフェ「TAILORED CAFE」を展開する。自家焙煎のものを中心に、多彩なフレーバーのコーヒー豆をそろえており、気分に合わせて好みの味わいを選べる。専用モバイルオーダーアプリ「COFFEE App」を使い事前注文することで、待ち時間なくスムーズに商品の受け取りができるほか、毎日スペシャルティコーヒーを楽しめる月額定額プランも提供する。

また、オープン時に特別ブースとして、「I DISPLAY music」の体験ブースを設置する。Googleが提供するさまざまなデバイスによって、Youtubeの音楽視聴に新しい楽しみ方を提案するもの。

同プロジェクトにて制作されたAdo「夜のピエロ（Teddy Loid Remix）」のMVの世界観を、Googleの最新ガジェットや、非接触ディスプレイを搭載した装置とともに体感できる。

「TAILORED CAFE」にてAdoとコラボレーションした限定カフェラテ、Adoのレコーディング部屋をモチーフにしたカフェブースも用意している。

展示商品の購入は、展示商品をスマホ上のお買い物バッグへ追加し、それをカウンターにて掲示することで決済手続きへと進む。

商品説明など販売員の役割の一部をスマホで担う。ショールーミングストアとは違い、全商品が持ち帰りに対応している。公式オンラインサイトでもストアと連動した商品を展開。店頭で購入を迷った場合でも、自宅でゆっくり検討、購入することができる。

（2021/8/27 流通ニュース）

これからの商業施設としてのシステムをすべて詰め込んだような実験店舗だ。感度の高い若者向けで、日常使いというよりは展示といった意味合いが強いかもしれないが、なんとなく流行りのようにふわふわしている「サステナビリティ」を体感できる良い場所になるかもしれない。ここから新たに広まっていくシステムもあるだろうし、ぜひチェックしておきたい。

---

## 2) 「パルコがウエルネス事業へ参入、大阪・心斎橋に医療モール“ウエルパ”開設へ」

ファッションビルのパルコはウエルネス事業へ参入を決め、大阪府中央区心斎橋筋の心斎橋パルコに11月、医療モールの「Welpa（ウエルパ）」を開設する。パルコの主要顧客に当たる20-40代女性の健康課題解決に貢献することで集客力の強化を目指し、今後、パルコその他店舗や大丸松坂屋百貨店などを舞台に全国展開する方針。

産婦人科、皮膚科・美容皮膚科、歯科のクリニックと、物販・サービスの4店舗が登場する予定。来店者が一息つけるラウンジやギャラリーも設ける。

医療モールは、既存のパルコ出店企業やスタートアップ企業と提携して開発するオープンイノベーション型事業として進め、パルコが打ち出す理念に共感してくれるクリニックや物販・サービス事業者を誘致する。

医療マーケティングの「スマートメディカル」、ヘルスケアオートメーション事業の「ドリコス」、女性のウエルネス向上に取り組む「fermata」、クリエイティブ・ディレクターの辻愛沙子さんとパートナーになり、さまざまな情報を提供するオンラインサービスと一体化して事業展開する。

20-40代の女性は同年代の男性に比べてがんの罹患率が高く、女性特有の病気も心配されるが、検診の受診率はそれほど高くない。商業施設に医療モールが存在することで平日夜や休日にも受診でき、買い物のついでに気軽に利用することができる。

さらに、医療モールを併設した商業施設が近年、全国で相次いで登場しており、来店客の獲得競争に医療モールの存在が大きく貢献している事例が明らかになっている。パルコはこうした点も考慮し、パルコの店舗だけでなく、大丸松坂屋百貨店の店舗にも医療モールを設けて集客力を伸ばしたい考えだ。

（2021/08/27 財経新聞）

一消費者としてはどうせ行くのであれば「ついで」がある場所を選びたいので、大型商業施設に医療モールがあれば便利だと思う。パルコのようなファッションビルであれば健康だけでなく美に関する医療ともイメージが結びつきやすいので、入居するクリニックも相乗効果を得られるだろう。これからの商業施設のあり方を各社模索しているが、近未来的なことにも取り組みつつ足元もしっかり固められる構成で存在価値を發揮してもらえれば、消極的になりつつある実店舗での消費活動も活気を取り戻していくのではないかと。

-----

### 3) 「使うだけでデジタル通貨がもらえる循環型トイレが韓国の大学に誕生」

国際再生可能エネルギー機関（IRENA）によると、世界の設備容量に占める再生可能エネルギーの比率は、2020年時点で36.6%（※1）。再生可能エネルギーへの転換が急務となっているなか、私たちが日常的に使う場所で、環境をめぐる人々の意識を変えていくことは大切ではないだろうか。

私たちは1日に、150～250グラムほど排便しているという。便は普通トイレに流されてしまうが、韓国では「価値あるもの」として、便をエネルギーに変えるトイレが誕生した。しかも、このトイレを使うとデジタル通貨がもらえるので、何だか得をした気分になる。

この循環型のトイレ「BeeVi」を開発したのは、韓国の蔚山科学技術大学校（UNIST）で教授を務めるチョ・ジェウォン氏だ。BeeViは、同大学のリビングラボ「Science Cabin」に設置されており、学生はもちろんのこと、学外の人も利用することができる。学生たちがトイレの利用を通して環境意識を高めることにもつながる。

BeeViは、どのような仕組みでエネルギーを生み出しているのだろうか。このトイレではまず真空ポンプを使って、便を地下にあるタンクに引き込む。水で流さないことで、水の使用量も減らしている。そして便は嫌気性消化槽に移され、微生物の働きによって、メタンガスなどを含むバイオガスが作られる。バイオガスは精製され、同施設のガスレンジやボイラーの燃料として使うことができるようになるのだ。BeeViは、ぱっと見た感じは普通のトイレだが、その背後に様々な実験設備が備わっているのが面白い。

さらにBeeViがユニークなのは、「便を価値のあるものにしたい」という考えから、トイレの利用者に独自のデジタル通貨「Ggool」をプレゼントしている点だ。利用者は壁に貼られたQRコードを読み取ることで、1日に10Ggoolを受け取れる。このお金は大学内でコーヒー、果物、本などを買うときに使えるので、自分の排泄物の価値を見直すことができる。

また、Ggoolは、同施設の裏庭で育てた作物を買うときにも使える。実はこの庭では、BeeViでバイオガスを作るときに残った便を堆肥化し、栽培に活用している。資源循環の仕組みが、日常生活に馴染むかたちで取り入れられているのだ。

新しい技術や仕組みは、多くの人に興味を持ってもらうことによって広まっていく。もしあなたの近くにBeeViのようなトイレがあったら、「ぜひ使ってみよう」と思うのではないだろうか。

（2021/08/26 IDEAS FOR GOOD）

持続可能性やエコが強く謳われている今、とても興味深いニュースだ。ダイレクトに堆肥として使うと寄生虫や病原菌など課題が多いかもしれないが、ガスとして精製する分には衛生的にも問題は少なそうだ。設備にかかる費用やそれに付随する建物への影響も、まだ実験段階で実用化は時間がかかるかもしれないが、学校や集合住宅、商業施設にも応用できそうだ。